

消防団とは

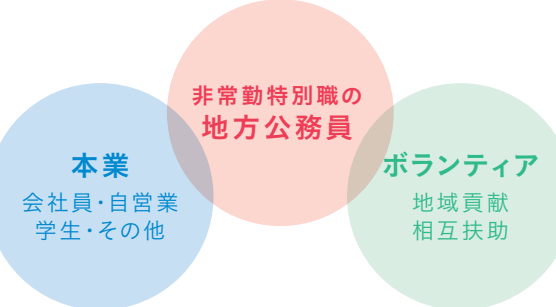
消防団は市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である消防団員は**本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員**として、「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、消防防災活動を行っています。

その活動は消火活動のみならず、地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助活動、避難誘導、災害防御活動など非常に重要な役割を果たしています。さらに、平常時においても、住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導等、地域に密着した活動を展開しており、地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。

消防団の特性

消防団の構成員である団員は、自らの意思に基づく参加、すなわちボランティアとしての性格も併せ有しています。

消防団は、大規模災害時をはじめとして、地域の安全確保のために大きな役割を果たしています。例えば、阪神・淡路大震災において、日頃から消防団を中心に行政機関と住民による自主防災組織との緊密な連携があった淡路島の北淡町（当時）では、激震地であったにもかかわらず、被害は最小限に抑えられました。これは、消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階などにおいては、住民自らが主役となって防災活動を行うことの重要性を示しています。



特性 1 地域密着性

構成員である団員は、地域の住民であることが多く、地元の事情等に通じ地域に密着した存在。

特性 2 要員動員力

団員数は、全国で78万3,578人（令和4年4月1日現在）と、常備職員（消防士）の約5倍の人員。

特性 3 即時対応力

団員は、日々技術向上に努め、教育訓練に励み、災害発生時には即時に対応できる能力を保有。

消防団の活動

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。

また近年は、女性の消防団への参加も増加しており、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍しています。

平常時の活動

- ① 防火指導・啓発活動・高齢者訪問
- ② 応急手当の普及活動
- ③ 広報活動

災害時の活動

- ① 消火活動
- ② 救助活動
- ③ 避難誘導

消防団員の報酬

多くの市町村で年額報酬や災害活動または訓練に出勤した際の報酬などが支給されます。また、以下のような待遇もあります。

公務災害補償

公務上の災害によって被った損害については公務災害補償制度に準じて補償されます。

退職報償金

消防団員が退職した場合、市町村から慰労金の性格として退職報償金が支給されます。

消防団へ入団するには

① お近くの消防団を探す

「消防団オフィシャルウェブサイト」から探してください。

② 消防団へ問い合わせる

ご希望の消防団に電話・メール等でお問い合わせください。

③ あなたも消防団員に！

案内に従い、入団手続きが完了すれば、晴れて「入団」となります。

【お問い合わせ先】

消防団への入団手続きについて、詳しくはお問い合わせ先へご連絡いただくか、消防団オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

消防団に関する詳しい情報はWEBで 検索
<https://www.fdma.go.jp/relocation/syobodan/>



「和牛消防団」
動画公開中

FDMA 総務省消防庁
住民とともに Fire and Disaster Management Agency



消防団員募集中

FDMA 総務省消防庁
住民とともに Fire and Disaster Management Agency

女性向け



消防団は女性が輝ける場所

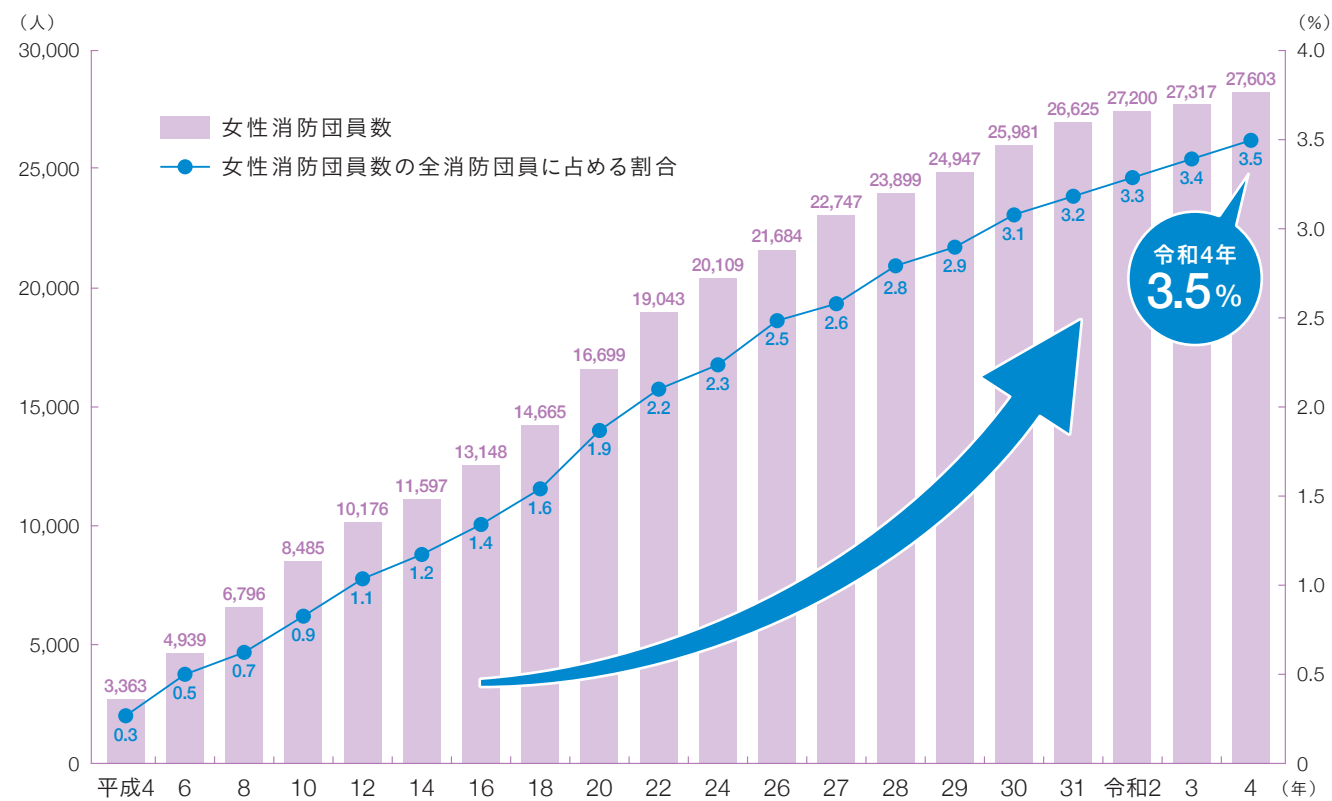
女性消防団員の推移

消防団員数が減少する一方で、女性消防団員数は年々増加しています。 令和4年4月1日現在、27,603人（全体の3.5%）、女性消防団員が活動している消防団の割合は、76.5%となっています。

女性消防団員は、地域の実情に応じて、消防団本部付けの採用とされたり、各地域を管轄する分団に所属したり、女性のみで組織する分団に所属するなど、活躍の形態はさまざまです。

消防団の組織の活性化や地域のニーズに応える方策として、女性消防団員をより積極的に採用しようという動きは全国的に広まっています。

女性の持つソフトな面を活かして、住宅用火災警報器の普及促進、一人暮らしの高齢者宅の防火訪問、住民に対する防災教育及び応急手当の普及指導等においては、特に女性消防団員の活躍が期待されています。また、消火活動や後方支援、操法訓練にも参加しています。



（備考）「消防防災・震災対策現況調査」により作成

女性消防団員が地域で担う取り組みの例

多くの女性のチカラが消防団で輝いています

- 広報活動、防火指導（高齢者宅、幼稚園等）
- 救急講習、AED講習
- 災害時の女性や子ども、高齢者への対応
- 避難所運営訓練（HUG）、研修
- 啓発劇、広報劇
- 小学生防災キャンプでの啓発

できる範囲で
無理なく
続けられそう



女性消防団員インタビュー

浦川優子さん

所属：松山市消防団女性分団
職業：個人事業主

学生時代から大学生消防団員の活動に参加していた浦川さんは、現在も家庭や仕事と両立しながら消防団の活動を続けています。

地元のためにできることを

学生時代は災害時に避難所などで支援を行う大学生消防団員の活動をしていましたが、そのきっかけは、東日本大震災です。大規模災害がいつ起こるかわからないと知り、自分にはできないのではないかと考えるようになりました。

社会人になっても、救命や防災に関わる活動を継続したいと思い、消防団に入団しました。現在は仕事しながら二人の子どもを育てていますが、一人で暮らすお年寄りへの訪問サポートや、学校や公民館で開かれる救急蘇生法に関するセミナーのお手伝いなどに参加しています。



もっと救命の知識を広めたい

最初は救命や防災の知識を身につけ、自分や家族のために役立てたいという思いがあり、実際に子どもが急な発熱とけいれんを起こしたときに知識を活かすこともできました。

でも、消防団の活動に関わる中で、どんどんこの知識を広めていきたいという気持ちが強くなっていきました。レクチャーをする場でも、うなずきながら話を聞いてくださる方や、積極的に質問してくださる方がいると、やりがいや責任感が生まれて、もっと勉強したいという気持ちになります。それで、今も少しずつ知識をアップデートしています。

少しでも人の役に立てるはず

消防団は、結婚をしても、出産をしても、何かしらの形で救命や地域に関わることができる場です。私も小さい子どもがいることで十分に活動できているとは言えませんが、それでも学んだことを伝えたり、地域活動の際に安心感を与える役割を担ったりと、人の役に立てているという実感があります。少しでも「何かできることはないかな？」と思ったら、まずは救命の講習やセミナーからでも参加してみてください。

いろんな世代の人と出会い、
地域の魅力を再発見でき、
地元への思いも強くなりました

消防団は世代を超えた
コミュニティでも
あるんですね



裏面には、消防団の基本情報やお問い合わせ先などがあります。ぜひご覧ください。